

# PROFILE

## 井上 隆 司

福岡大学医学部生理学



今春4月1日から、今永一成教授の後任として、福岡大学医学部生理学教室に赴任いたしました。九州大学大学院医学研究院生体情報薬理学教室に在籍中は、伊東祐之教授を始め教室の皆様及び日本薬理学会の皆様大変お世話になりました。

研究について：私は昭和56年に大阪大学医学部を卒業し、2年間の臨床研修を経て、故栗山熙教授の教室に入りました。その当時、栗山研は平滑筋の研究のメッカとして常時30人近くの大学院生が集い、朝から晩まで実験に勤しむ(?)熱気溢れる研究室でした。そして、私もすぐにこの熱気に飲み込まれ、研究の面白さに取り憑かっていたことが、まるで昨日のように思い出されます。私が大学院生時代に取り組んだテーマは、当時まだ仮説の段階であった「受容体作動性Ca流入」の実体やその制御機構を解明することでした。この目的のために、単離した種々の平滑筋細胞にパッチクランプ法を適用して、受容体刺激で活性化される電流の解析を行いました。最初は電流を安定して記録する方法を見つけるだけでも大変な試行錯誤の連続で、何度研究のテーマを変えようと思ったか知りません。しかし、ドイツ留学時に最初の重要な突破口が得られ、その後、種々の物理化学刺激で活性化される non-voltage-gated  $Ca^{2+}$  channel 群、TRP (transient receptor potential) 蛋白質の研究に行き着くに到って、ようやく最初のテーマの「分子実体の解明」に迫るところまで来たという感じがしています。今後は、TRP 蛋白質の制御機構や生体内機能、疾患との関連の解明に留まらず、この蛋白質を標的とした新しい範疇のCa拮抗薬・活性化薬の開発にもチャレンジしていきたいと考えています。

教育について：生理学はいうまでもなく医学教育の基礎であります。医師を志す若者は、これを学ぶことを通して初めて本格的に医学に触れ、「生命現象」の神秘的とも言える真髄を知ることになります。また同時に、二つとない「いのち」の尊さを考える機会も与えられるのだと思います。最近、ゲノムプロジェクトが完了し、人類の病気が克服されるのも時間の問題であるという楽観論をしばしば耳にします。しかし一方では、遺伝子万能論では到底捉えきれない生命の複雑性・多様性も明らかになりつつあります。今後は、教育や研究を通して、このような神秘に満ちた生命現象を学ぶ喜びと生命に対する畏敬の念を、一人でも多くの若い人たちに伝え分かち合うことを目標として、日々地道な努力を続けていきたいと思っています。

### 略歴

- |            |                             |
|------------|-----------------------------|
| 1981年      | 大阪大学医学部医学卒                  |
| 1981～1983年 | 九州大学医学部附属病院小児科研修医           |
| 1983～1987年 | 九州大学大学院医学研究科博士専攻課程、学位取得後卒業  |
| 1987～1989年 | 西独フンボルト財団奨励研究員(ケルン大学生理学研究所) |
| 1989～1991年 | 英オックスフォード大学薬理学研究員           |
| 1995～2005年 | 九州大学大学院医学研究院生体情報薬理学助教授      |
| 2005年4月～   | 福岡大学医学部生理学教授                |

現在の趣味：読書、古今東西建築物渉猟。

写真：愛犬(ふーが)と一緒に。